

令和6年度第1回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日 時 令和6年6月9日(日) 11:00~17:00
- 場 所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主 催 CIFER・コア、共和海建グループ、きしわだ自然資料館
- 参加者数 147名 (CIFER・コア 39名、共和海建グループ 54名、きしわだ自然資料館 54名 (うち子供 19名))



- 行 程 11:00 昼食 (BBQ)
- 13:00 岸和田地蔵浜マルシェ前集合、挨拶
(きしわだ自然資料館 柏尾氏、共和海建グループ 石川氏、CIFER・コア 横山)
- 13:10 出航 (阪南2区南側を経由し、干潟へ。船内で干潟の造成経緯を説明、矢持先生の指導により、水温、DO計測)
- 13:40 きしわだ自然資料館の柏尾氏より、注意事項など
- 13:50 海砂投入、護岸清掃 (共和海建グループ)、干潟観察
- 15:30 帰港
- 15:50 採取生物の同定と講師による説明 (鯉巾着セリ場)
- 17:00 終了 (堺泉北埠頭(株)からノート・ペンの配布)

○活動内容

今年度第1回目となる「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」は、過去最高の147名のご参加があり、盛況となりました。当日は干潮が13時30分のため、事前に昼食をとることとなり、CIFER・コアと共和海建グループの参加者は11時前から恒例のBBQで腹ごしらえをしました。13時前まではかなりの雨が降っていましたが、干潟へ渡る乗船時間の13時から観察会を終える15時30分まではピタッと雨がやみ、無事に開催することができました。

行きの船上では、子供たちに干潟生物の生育環境について学んでもらうため、CIFER・コアの矢持理事の指導の下、溶存酸素計を用いて海中の深い場所と浅い場所で温度や酸素飽和度がどのように違うのかを体験してもらいました。

干潟の観察では、干潟一面に無数にウミニナが見られ、マテガイやハクセンシオマネキを見つけることもできました。また、葦原の近くの貝殻交じりの砂の上にはコアジサシが小さな窪みに巣を作り、卵3個を産んでいるのが見つかったほか、上陸棧橋の近くでは褐藻類のタマハハキモクの群落も見られました。

今回は初めての取り組みとして、干潟への海砂の補給を行いました。共和海建グループが事前に船で干潟に運び入れた海砂を、子供たちがバケツで波打ち際まで運んでくれました。子供たちは、自分の手で自然を再生する実感を得られたのではないのでしょうか。



溶存酸素計を用いて水環境を学ぶ



共和海建 G による護岸の清掃活動



干潟の危険生物などについて解説



干潟への海砂投入作業。子供たちをはじめ、多くの参加者に手伝ってもらいました。



干潟観察会の様子



マテガイ

コアジサシの卵